



まきび通信

校訓：夢へ みんなで まっすぐに

岡山県立倉敷まきび支援学校

学校だより

令和6年度7月号



【7月は防災教育月間です】

7月になりました。今年も吉備真備駅前を七夕飾りが彩っています。本校中学部の生徒たちが書いた短冊も飾られています。

豪雨災害から6年が経過しました。3日には、学校の西隣に完成した「まびふれあい公園」の開園式があり、各学部の代表者が参加し、植栽イベントでは伊東倉敷市長と一緒にプランターに花の苗を植えました。



地域でも様々な行事が実施されましたが、7月6日は6年前と同じ土曜日だったので、今年度は真備支所での献花に児童生徒は参加できませんでした。しかし、真備町の自然や文化を守り継承しつつ、再生と復興・発展をめざすためにも、被災で得た教訓を忘れることなく、防災の取組を続けていかなければならないと思っています。本校では、7月を防災教育月間とし、各学部で防災学習に取り組んでいます。

(校長 金島 一顯)



校外での学習～B小修学旅行～

今年度の修学旅行の第1陣として、6月20日～21日にB部門小学部の子どもたちが姫路に行ってきました。当日は雨の予報だったので、6年生の子どもたちは事前にてるてる坊主を作って旅行にも持参しました。おかげで雨に降られることなく2日間を過ごすことができました。

昨年は10月に神戸に行きましたが、今年は6月に姫路へ行きました。入梅前の姫路は気候としては暑すぎず寒すぎず、6年生の子どもたちは体調を崩すことなく活動することができました。また、新幹線で姫路に着いたあとは、貸切バスや福祉タクシーではなく、バリアフリー対応の路線バスを使って移動しました。普段乗ることのない路線バス、「来るかな？来るかな？」とバスが見えるのを友達と待つことにも何だかワクワクしました。知らないお客さんと一緒に乗りながら、ピンポンという降りる合図の音を聞いたり各バス停での人の乗り降りの様子を感じたりしました。いつもは目を閉じてしまいがちな子はしっかり起きていて、いつも目がぱっちりの子はいつも以上にキラキラした目で、子どもたちにとっては何もかもが新鮮な時間でした。

「いつもこうだから」「例年こうだから」ではなく、目の前の子どもたちに付けたい力は何なのか、大事にしたいことは何なのか、必要な学びなのか、経験や学習がどうつながっていくのかという視点で、子どもたちの成長を見据えて、目標や活動内容が毎年計画されています。そして何より、子どもたちが達成感を感じて次への意欲や自信につながる学びになることを願っています。

さて、姫路での活動ですが、旅の始めからついていたようで、やってきた新幹線は偶然にもキティちゃん列車で、車内は特別仕様でした。姫路に着いて、回転焼きで有名な御座候の「あずきミュージアム」や「姫路市立水族館」に行きました。活動、見学はもちろん、「あずきミュージアム」にはとても美味しいあずきソフトクリームがあり、お腹も幸せに満たされました。「ホテル日航姫路」の食事でも美味しすぎて、帰ってからは家での食事が進まない?!ということも(笑)。旅行の様子は学校のFacebookにたくさん載せていますので、ぜひ見てください。そして、行ってきた6年生の子どもたちにたくさんお話を聞いてみてください。目を輝かせて教えてくれることと思います。

(B部門教頭 妹尾 美樹)

